

岡山理科大学に対する改善報告書検討結果

＜大学評価実施年度：2020年度＞

＜改善報告書検討実施年度：2024年度＞

岡山理科大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、3点の改善課題及び2点の是正勧告の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

＜改善に向けた大学全体の取り組み＞

全学の内部質保証に責任を負う組織と位置づけた「全学評価・計画委員会」及び同委員会と学部評価・計画委員会が合同で開催する「評価・計画委員会合同会議」において、2021年5月に大学評価結果を共有し、今後取り組むべき改善・向上の施策を協議した。特に各基準に付された概評及び提言（是正勧告及び改善課題）については、大学評価時の現状について確認するとともに、付された提言（是正勧告及び改善課題）に関し、学長が対応方針を示している。

2022年度からの中期目標・中期計画である、「第2期アクションプラン」においては、大学評価における提言を踏まえた改善計画を組み込んで策定しており、これを単年度の事業計画に落とし込み進捗管理することで、改善状況を把握しているほか、「評価・計画委員会合同会議」において是正勧告、改善課題に関する改善状況の進捗を確認している。

このような内部質保証システムを通じた改善への取り組みについて、入学者選抜における評価の基準を明確にするための仕組み等の改善、合否判定のプロセスに関する規程の整備、入試関連データのセキュリティ対策、一部の学士課程、博士課程における教育課程の編成・実施方針の改善に向けて取り組んでいることは概ね評価できる。しかしながら、学士課程や一部の修士課程で定員充足率の低迷が続いており、さらなる改善が求められる。

＜是正勧告、改善課題の改善状況＞

提言の改善状況から、改善の成果が十分に表れているとはいえない。

是正勧告については、学生の受け入れにおける学部の定員管理の問題に関して、引き続き是正を図る必要がある。

改善課題については、学生の受け入れにおける大学院の定員管理の問題に関して、今後もさらなる改善に努めることが求められる。

個別の提言への改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、各提言に対する検討所見のとおりである。なお、前回の大学評価時には指摘対象となっていなかった事項について、今回の改善報告書提出時には提言に相当する問題が生じているため、検討所見を参照し、次回の大学評価に向けて改善に取り組むことが求められる。

岡山理科大学

1. 是正勧告

No.	種 別	内 容
1	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	<p>過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、理学部化学科で0.85、同応用物理学科で0.78、工学部生命医療工学科では0.80と低い。また、収容定員に対する在籍学生数比率について、理学部で0.87、同化学科が0.81、同応用物理学科が0.73、同生物化学科が0.86、同臨床生命科学科が0.80、工学部バイオ・応用化学科では0.84、同知能機械工学科が0.88、同生命医療工学科では0.69と低いため、学部の定員管理を徹底するよう、是正されたい。</p>
	検討所見	<p>2022年度に生命科学部、情報理工学部の新設、応用物理学科から物理学科への名称変更、バイオ・応用化学科から応用化学科への名称変更、学部横断型コース「アクティブラーナーズコース」の設置を行っている。これらの改組した組織も含め、学部・学科の定員未充足の改善策を「第2期アクションプラン」中期計画に示した「戦略的な募集広報の展開」、「ブランド形成のための体制構築」に位置づけ、2022年度事業計画に落とし込んでいるほか、「理学部評価・計画委員会」「工学部評価・計画委員会」「生命科学部評価・計画委員会」で、学部単位での入学者確保に向けた広報活動の取り組みについて、中期計画、事業計画に基づき実行している。</p> <p>しかしながら、その成果が表れているとはいえない。過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、理学部化学科で0.63、応用物理学科から名称変更した同物理学科で0.63、工学部生命医療工学科では0.62と低い。また、収容定員に対する在籍学生数比率について、理学部で0.68、同化学科で0.53、同物理学科で0.58、同臨床生命科学科で0.71、工学部バイオ・応用化学科から名称変更した同応用化学科で0.55、同生命医療工学科で0.73と低いため、学部の定員管理を徹底するよう、</p>

岡山理科大学

		<p>是正されたい。</p> <p>また、理学部生物化学科及び工学部知能機械工学科については募集停止している。</p> <p>なお、大学評価時には提言の対象ではなかったものの、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、学士課程全体で0.87、理学部で0.76、同基礎理学科で0.76、同臨床生命科学科で0.75、工学部で0.86、同機械システム工学科で0.83、同電気電子システム学科で0.83、同応用化学科で0.58、教育学部で0.63、同初等教育学科で0.62、同中等教育学科で0.63と低くなっており、収容定員に対する在籍学生数比率についても、学士課程全体で0.85、理学部応用数学科で0.79、同基礎理学科で0.67、同動物学科で0.87、工学部で0.85、同機械システム工学科0.77、同電気電子システム学科0.76、教育学部で0.55、同初等教育学科で0.53、同中等教育学科で0.57と低くなっていることから是正されたい。また、完成年度を迎えていないものの、生命科学部生物科学科において、開設年度以降の入学定員に対する入学者数比率の平均及び収容定員に対する在籍学生数比率が低くなっているため、改善が望まれる。</p> <p>上記のことから、理学部、同化学科、同物理学科、同臨床生命科学科、工学部応用化学科、工学部生命医療工学科については次回大学評価の際に改善状況を再度報告されたい。</p>
No.	種 別	内 容
2	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	<p>入学者選抜に関して、獣医学部獣医学科の推薦入試A方式においては、面接官に恣意的な判断の余地を与えかねないあいまいな評価基準のもとで面接試験が行われており、合否判定の手續においても規程の定めのない組織が関わるなど、規程等に明確に定められたプロセスのもとで合否判定が実施されていない。また、入試に関わるデータについても厳重に管理できておらず、公平・公正な入学者選抜</p>

岡山理科大学

		<p>を行うための運営体制・方法が適切に整備されているとはいえないため、是正されたい。</p>
<p>検討所見</p>		<p>入学者選抜における評価の基準を明確にするため、新たにルーブリック評価票を 2021 年度に導入している。このルーブリック評価票では、学生の受け入れ方針と質問項目との関係を明確にすることで、質問の意図を明確化し、面接委員による質問及び評価の差異を減らす工夫を行っている。また、ルーブリック評価票において評価項目の部分点を明示し、面接において低評価となる受験者がいた場合には、特に所見をつけることで恣意的な運用をしないよう工夫しているほか、学部では受験者ごとに評価点の妥当性を確認して報告書にとりまとめ、入試広報センターに提出する仕組みを整備している。</p> <p>合否判定のプロセスについては、学則を改定して、「選抜方法に関して必要な事項は別に定める」ことを規定したうえで、「岡山理科大学入学者選抜に関する規程」を整備し、その定めに基づき、入試広報センターが合否判定原案を作成し、入学委員会、獣医学部教授会の議を経て学部長が学長に報告している。この報告をもって、学長が決定する運用としているとするものの、学生の入学に関して、教授会は学長が決定を行うに当たり意見を述べる役割を担うにとどまり、その決定は学長が行うことが学校教育法における定めであるため、教授会と学長の役割分担を明確化する観点から、学長が決定したことを検証可能な形で記録することが望まれる。</p> <p>入試に関わるデータの管理については、2022 年度からの「第 2 期アクションプラン」に「DX 推進体制の構築と情報セキュリティ対策強化」に関する中期計画を策定したうえで 2022 年度の事業計画に落とし込み、これに基づく取り組みを進めている。具体的には、「岡山理科大学情報セキュリティ対策基本方針」を定めるとともに、これに基づく「岡山理科大学情報セキュリティ対策基本規程」において、全学及び各部局における責任者を明確にした情報セキュリティ体制を規定しており、入学試験に関わる</p>

岡山理科大学

		<p>データを取り扱う入試広報部内においても規程に基づく体制を構築している。また、「入試広報部情報セキュリティ対策マニュアル」を整備し、この中で、入学試験に関わるデータのセキュリティレベルを格付けするとともに取り扱い制限についても明示している。なお、入試広報部及び全学部の入試データを保存する金庫室について要管理対策区域として設定し、「入試広報部職員もしくは部局総括責任者の許可を得た者」のみに立ち入りを制限している。</p> <p>以上のことから、評価基準を明確にして面接試験を実施し、入学者選抜に関する規程を再整備したうえで、規定に基づく入学者選抜を実施しているほか、入試に関わるデータを適切に管理しており、改善が認められる。</p>
--	--	---

2. 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準 4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	教育課程の編成・実施方針に、工学研究科博士課程（後期）では教育課程の編成、教育学部では教育課程の実施に関する基本的な考え方を示していないため、改善が求められる。
	検討所見	2021 年度に「教育推進機構会議」において工学研究科博士課程（後期）及び教育学部の教育課程の編成・実施の方針について審議し、教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方を示した方針に改正している。これら方針については、『大学院要覧』及び『教育の目標と方針』で学生に周知を図るとともに、ホームページを通じて公表していることから改善が認められる。なお、工学研究科博士課程（後期）については 2023 年度に学生募集を停止している。

岡山理科大学

No.	種 別	内 容
2	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	理学部及び生物地球学部では、1年間に履修登録できる単位数の上限が設定されているものの、教職関連科目などの資格取得に関わる科目等について、上限を超えて履修登録することを認めている。これにより、実際に上限を超えて多くの単位を履修登録する学生が相当数おり、「教育ディベロッパー」を中心に改善に向けた検討が進められているものの、現状としては単位の実質化を図る措置は不十分であるため、単位制の趣旨に照らして改善が求められる。
	検討所見	2025年度の入学生から、教職関連科目及び学芸員関連科目について、各学部・学科の養成する人材像や学位授与方針から逸脱しない範囲で、基盤教育科目として卒業に必要な単位数に算入できる取り扱いができることを「大学協議会」で決定している。新たな取り扱いのもとでは、理学部及び生物地球学部において、教職関連科目及び学芸員関連科目のみならずその他の資格関連科目を履修した場合についても、1年間に履修登録できる単位の上限設定の例外として扱わないこととしており改善が認められる。なお、成績評価の厳格性確保、授業時間外に必要な学習の促進等の単位の実質化を図るその他の措置については大学評価時から変化がなく、依然として不十分であることから改善が望まれる。
No.	種 別	内 容
3	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	収容定員に対する在籍学生数比率について、理学研究科修士課程で0.47、同博士課程（後期）で0.21、総合情報研究科修士課程で0.42と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。
	検討所見	2021年度より中期計画の「大学院組織の将来構

岡山理科大学

		<p>想を策定する」に事業計画「既存の研究科・専攻の定員を見直し、専攻の大括り化に向けた改組の計画を定める」を位置づけ、これに基づき、2022年度から学納金を改定するとともに、大学評価時に指摘を受けた理学研究科、総合情報研究科に加えて、工学研究科及び生物地球科学研究科を募集停止し、1つの研究科に統合した理工学研究科を2023年度に開設している。</p> <p>なお、大学評価時には提言の対象ではなかった獣医学研究科修士課程では、収容定員に対する在籍学生数比率が0.40と低いため改善が求められる。</p>
--	--	---

<再度報告を求める事項>

是正勧告No.1については次回の大学評価の際に改善状況を再度報告されたい。

<弾力的措置にかかる要件の充足状況>

弾力的措置にかかる要件	前回の評価結果 における提言	改善状況
ア) 基準2「内部質保証」に関し、是正勧告及び改善課題のいずれも提言されていない。	無	—
イ) 基準4「教育課程・学習成果」に関し、是正勧告が提言されていない。	無	—
ウ) 基準4「教育課程・学習成果」の学習成果の測定に関しては、改善課題も付されていない。	無	—

以上